

I

調査方法の概要と調査結果の概要

1. 調査方法の概要

- (1) 調査の目的 平成 21 年に区制 70 周年を迎える港北区のこれからの施策を策定する資料とするとともに、策定作業を進めている「第 2 期港北区地域福祉保健計画」の基礎資料とすることを目的とする。
- (2) 調査期間 平成 20 年 11 月 26 日から 12 月 15 日まで
- (3) 調査方法 郵送依頼郵送回収
- (4) 調査対象 区内在住の 18 歳以上、4,000 人
(住民基本台帳及び外国人登録原票からコンピュータにより無作為抽出)
- (5) 有効回答数 2,362 件 (回収率 59.0%)

* 本文および図表中では、原則として小数点第 2 位以下四捨五入した。したがって、合計が 100 にならないものがある。また、個々の比率を合計した場合と、個々の実数を合計した場合との比率を示す数値が一致しないことがある。

* 表・グラフ中の N は有効回答数を表す。

2. 調査結果の概要

(1) 回答者の主な属性について

①性

「男性」が43.2%、「女性」56.4%で、女性の回答者が13ポイント以上高くなっていた。

②年齢

年齢は、「18～24歳」5.7%、「25～29歳」6.1%、「30～34歳」9.7%、「35～39歳」11.5%、「40～44歳」10.7%、「45～49歳」8.1%、「50～54歳」7.4%、「55～59歳」8.9%、「60～64歳」8.4%、「65～69歳」7.3%、「70～74歳」6.7%、「75歳以上」9.2%であった。

年代別にまとめると「30歳未満」が11.8%、「30歳代」21.2%、「40歳代」18.8%、「50歳代」16.3%、「60歳代」15.7%、「70歳以上」15.9%となった。年齢別人口統計との比較では、30歳未満が8ポイント低く、50歳代以上が2～3ポイント高くなっていた。

③家族構成

同居している家族の構成については、「ひとり暮らし」12.3%、「夫婦だけ」24.5%、「2世代（親と子）」51.8%、「3世代（親と子と孫）」7.1%、「その他」3.9%であった。「2世代（親と子）」が51.8%と過半数を超えて最も多かった。

④配偶者の有・無

配偶者の有無については、「はい」66.0%、「いいえ」33.7%であった。配偶者有りが全体の3分の2となった。

⑤共働きの有・無

配偶者の有る世帯のうちで、共働きをしているかについては、「はい」39.0%、「いいえ」60.1%であった。

⑥子どもの年齢

子どもの年齢については、「3歳以下」7.9%、「4～6歳」5.5%、「7～12歳」11.3%、「13～15歳」5.2%、「16～18歳」5.4%、「19歳以上」40.7%、「子どもはいない」27.8%であった。「19歳以上」が全体の40%を超えて最も多く、「13～15歳」が最も少なかった。

⑦就労状況

就労状況については、「自営業」7.8%、「会社員・公務員（派遣・契約社員含む）」38.4%、「学生」3.9%、「パート・アルバイト」12.6%、「専業主婦（主夫）」20.2%、「就労していない」12.8%、「その他」3.6%であった。

「会社員・公務員（派遣・契約社員含む）」が最も多かった。

⑧居住地域

居住地域については、「大曽根、大曽根台」3.6%、「菊名、篠原北、新横浜、錦が丘、大豆戸町」13.2%、「篠原台町、篠原西町、篠原東、仲手原、富士塚、篠原町」11.2%、「岸根町、小机町、鳥山町」7.1%、「樽町」3.9%、「大倉山、太尾町」8.6%、「師岡町」2.6%、「新吉田町、新吉田東」7.6%、「高田町、高田東、高田西」5.5%、「綱島上町、綱島台、綱島東、綱島西」11.3%、「新羽町、北新横浜」3.9%、「下田町、日吉、日吉本町、箕輪町」21.3%で、町別の人口統計データとほぼ同じ割合であった。

⑨最寄り駅

普段最も良く使う最寄り駅は、「新羽駅」3.9%、「北新横浜駅」1.6%、「新横浜駅」5.8%、「岸根公園駅」2.1%、「日吉駅」19.1%、「日吉本町駅」2.6%、「高田駅」3.2%、「菊名駅」7.7%、「小机駅」5.5%、「綱島駅」24.4%、「大倉山駅」15.0%、「妙蓮寺駅」6.4%、「その他」2.3%であった。

⑩住居の形態

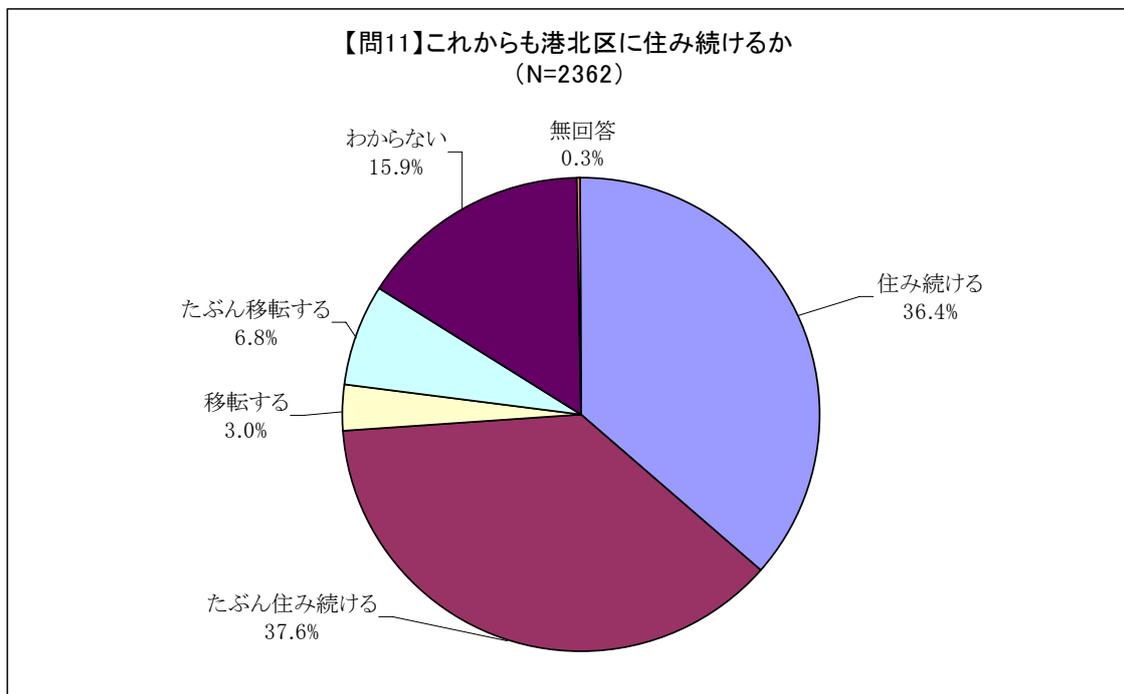
住居の形態は、「持ち家（一戸建て）」40.7%、「持ち家（マンション・共同住宅）」30.5%、「賃貸住宅（一戸建て）」2.2%、「賃貸住宅（マンション・共同住宅・アパート）」23.1%、「社宅・公務員住宅」1.7%、「その他」1.4%であった。「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（マンション・共同住宅）」あわせて71.2%と「持ち家」の割合が高かった。

⑪居住歴

現住所での居住歴については、「0～2年」13.6%、「3～4年」11.8%、「5～10年」21.9%、「11～20年」18.5%、「21～30年」13.7%、「31～40年」10.3%、「41年以上」9.7%であった。

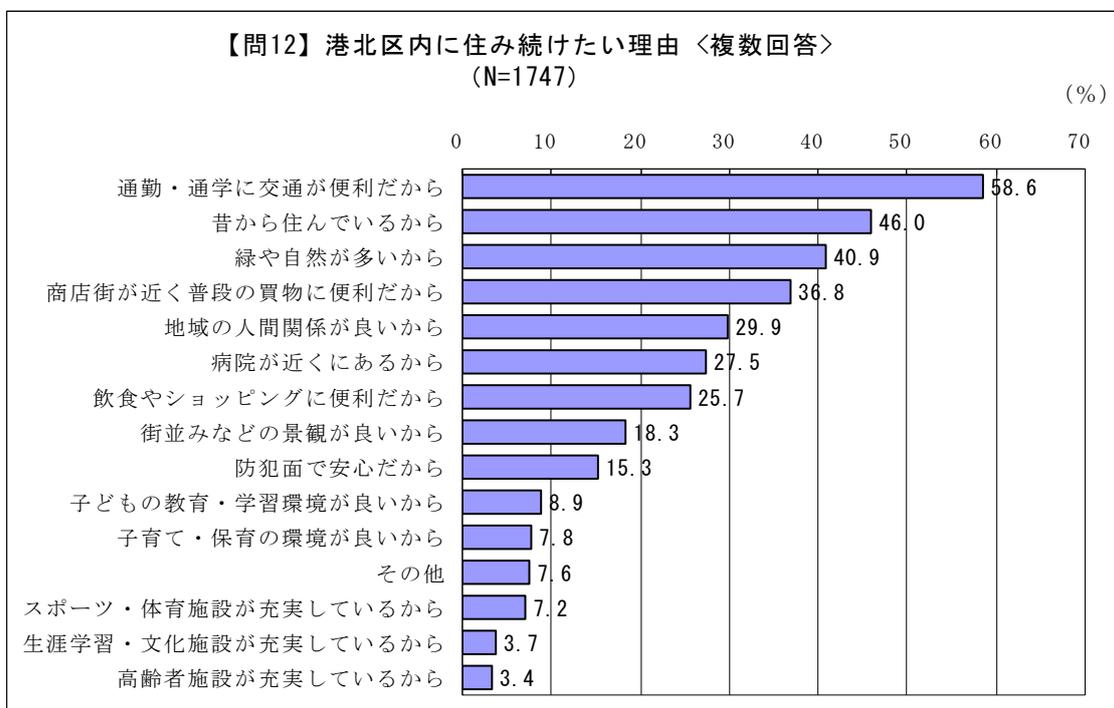
(2) 4分の3が「港北区内に住み続ける」

「これからもずっと港北区内に住み続けようと思っていますか」という質問をした。「住み続ける」という答えが36.4%、「たぶん住み続ける」が37.6%で、合わせて74.0%の人が引き続き「住み続けようと思っている」と答えていた。「移転する」が3.0%、「たぶん移転する」が6.8%で、合わせて1割(9.8%)となっていた。定住志向の強い区民意識が現れている。



(3) 住みたい理由のトップは「通勤・通学に便利」

また、「たぶん」を含めて「住み続ける」と答えた人だけに、「住み続けたい理由」を聞くと「通勤・通学に交通の便がよい」が58.6%、「昔から住んでいる」が46.0%、「緑や自然が多い」が40.9%、「商店街が近くふだんの買い物に便利だ」が36.8%などの理由をあげた人が多かった。続いて「地域の人間関係が良いから」「病院が近くにあるから」「飲食やショッピングに便利だから」が20%台で並んでいた。



(4) 行政サービスで「満足しているもの」は
「交通の便」「ごみの分別」「地域医療」

「行政のサービスや事業」について「満足しているもの」と「充実すべきと思うもの」を17の選択肢からそれぞれ3つまで選んでもらった。「満足しているもの」では、「バスや地下鉄などの便」が44.0%で最も多く、続いて「ごみの分別収集・リサイクル」が25.4%、「病院や救急医療など地域医療」が17.6%、「高齢者や障がい者が移動しやすい街づくり（駅舎へのエレベーター設置など）」が14.7%となっていた。そのほか「緑の保全と緑化の推進」「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」「最寄り駅周辺の整備」が10%台前半で並んでいた。

(5) 行政サービスで「充実すべきこと」は
「病院・医療」「高齢者福祉」「防犯対策」

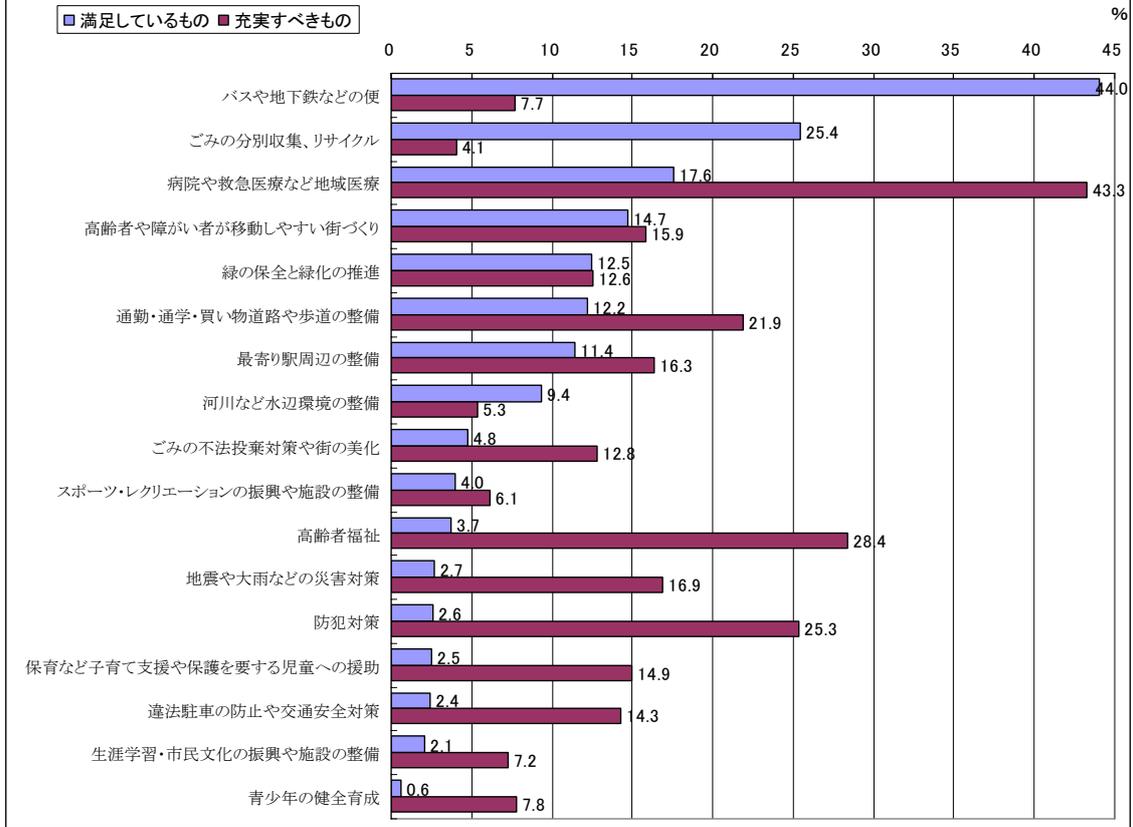
「充実すべきと思うもの」では、多い順に「病院や救急医療など地域医療」が43.3%、「高齢者福祉」が28.4%、「防犯対策」が25.3%、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」が21.9%と続いていた。さらに「地震や大雨などの災害対策」「最寄り駅周辺の整備」「高齢者や障がい者が移動しやすい街づくり」「保育など子育て支援や保護を要する児童への援助」「違法駐車防止や交通安全対策」などが10%台半ばで並んでいた。

「地域医療」や「買い物道路や歩道の整備」は「満足しているもの」として一定程度の評価はあるものの、「充実すべきと思うもの」がその約2倍となっていた。

これらの回答はそれぞれ3つまで選んでもらったが、有効回答数を見ると「満足しているもの」は4,131回答、「充実すべきと思うもの」には6,215回答となっていた。「満足すべきもの」として答えたのは平均で1人1.7項目であり、「充実すべきと思うもの」を答えたのは平均で1人2.6項目となっており、「充実すべきと思う」という行政への要望の方が5割増しとなっていた。

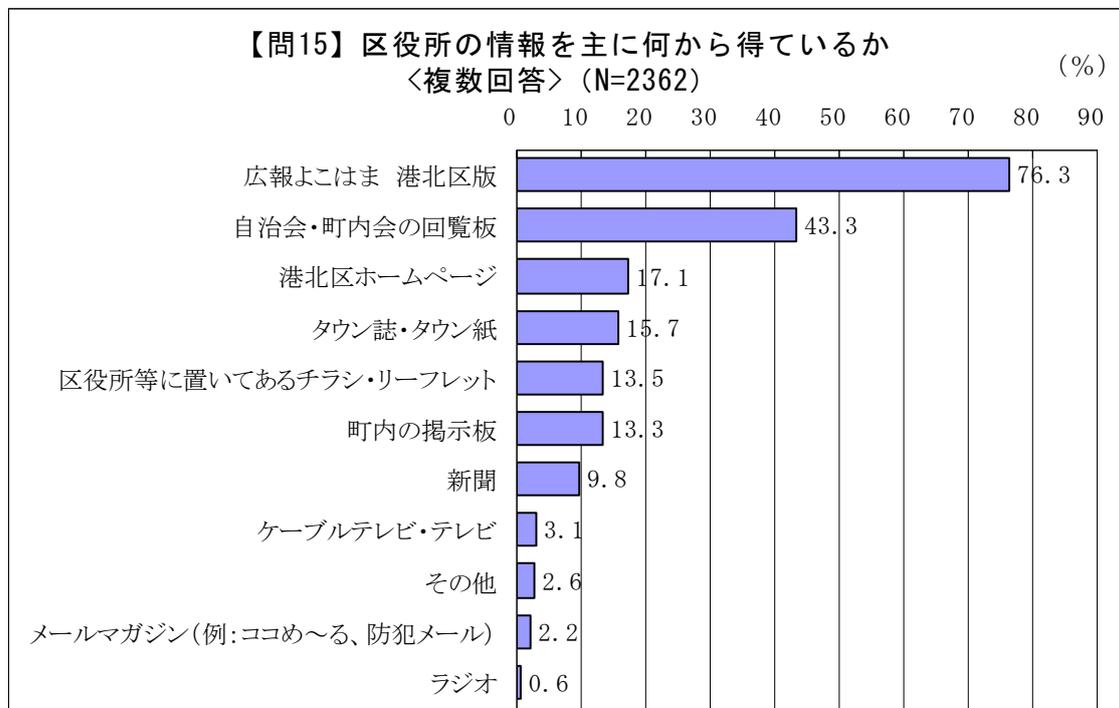
平成16年度の「港北区暮らしの課題調査」（同年11月実施。以下「前回調査」という）でも、ほぼ同様な選択肢で「暮らしの中の重要な課題」がある（P109 問8参照）。この時は多い順に「防犯対策」44.4%、「地域医療」41.6%、「地震などの災害対策」34.9%、「高齢者福祉」31.1%となっていた。今回と比較すると、「地域医療」「高齢者福祉」は相変わらず高い要望が出されているが、「防犯対策」「災害対策」が18~20ポイント低くなっていた。

【問13・問14】行政のサービスや業務で「満足しているもの」「充実すべきもの」〈複数回答〉
(N=2362)



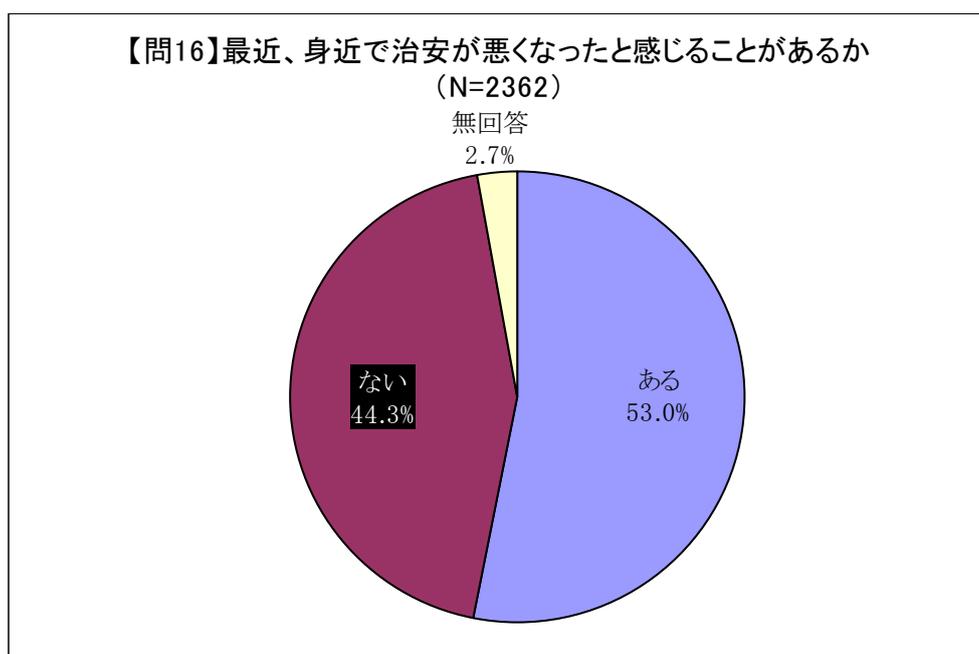
(6) 区役所の情報は、「広報よこはま区版」からが約8割

行政サービスへの意見に続いて、「区役所の情報を主に何から得ているか」について選択肢を10用意して3つまで答えてもらった。「広報よこはま港北区版」が76.3%で圧倒的に多かった。続いて「自治会・町内会の回覧板」が43.3%で続いており、「港北区ホームページ」「タウン誌・紙」「区役所や駅、公共施設に置いてあるチラシ・リーフレット」「町内の掲示板」などがそれぞれ10%台で並んでいた。「新聞」以下の答えは1桁台にとどまっていた。



(7) 「最近治安が悪くなった」と感じる人が半数を超える

「最近、身近で治安が悪くなったと感じることがあるか」という質問では、「ある」が53.0%、「ない」が44.3%で、過半数の人が治安の悪化を感じていた。

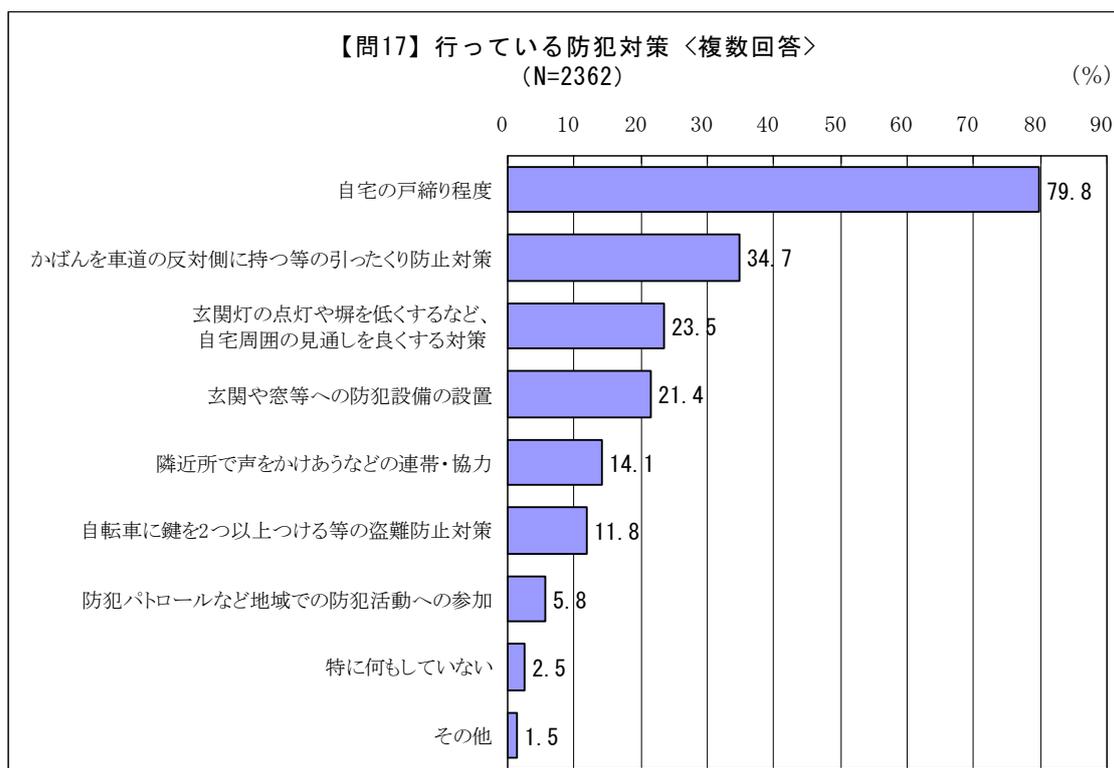


(8) 防犯対策は

「戸締まり」「引ったくり防止対策」「見通しよく」「防犯設備」

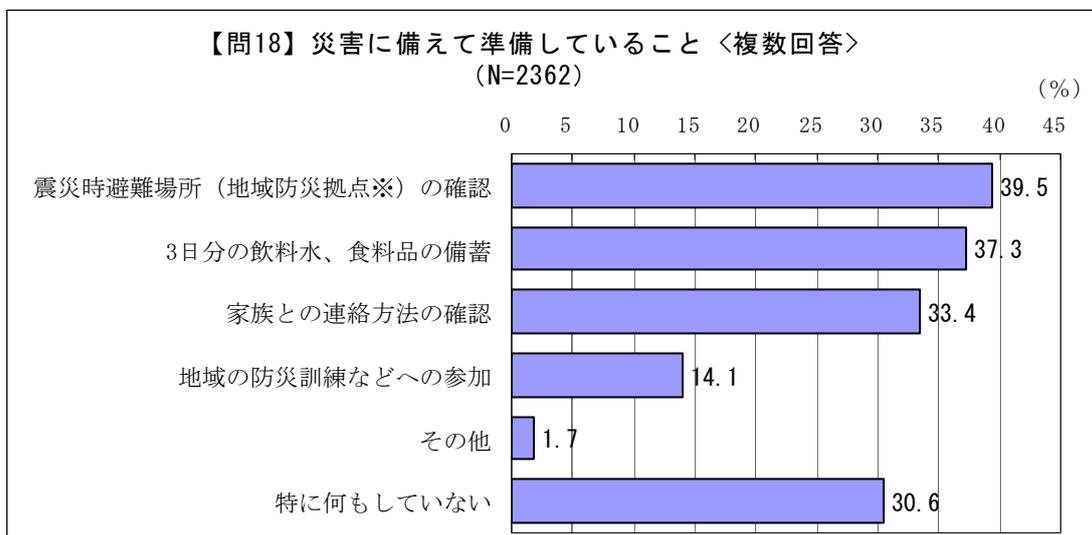
これに対して実際に「行っている防犯対策」について選択肢を8つ用意して複数回答(いくつでも)を求めた。「自宅の戸締まり程度」が79.8%で最も多くなっており、大きく離れて「引ったくり防止対策」が34.7%、「自宅周囲の見通しをよくする対策」が23.5%、「玄関や窓への防犯設備の設置」が21.4%となっていた。

前回調査(P109 問11・問12 参照)では、「治安が悪くなった」と感じる人は68.3%であったことと比べると、15ポイント下がっている。また、防犯対策では「自宅の戸締まり程度」が83.0%であったので、今回の方が4ポイントほど下がっている。「自宅の防犯対策(玄関ドア鍵対策、窓ガラス対策、防犯ブザーなど)(今回・玄関や窓等への防犯設備の設置)」が41.5%、「死角をなくす(今回・見通しをよくする)」が33.6%であったのが、今回は10~20ポイント低くなっていた。



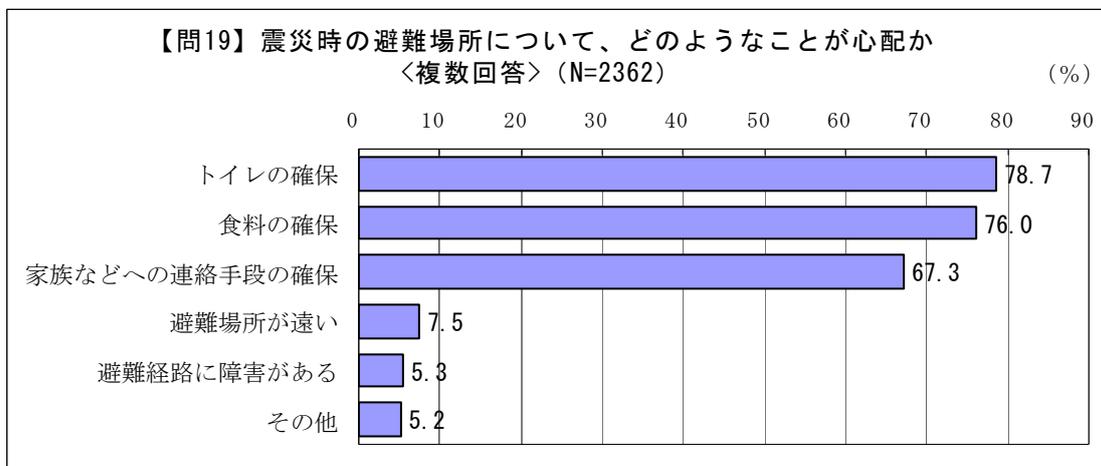
(9) 災害への備えは
「避難場所の確認」「水・食料品備蓄」「連絡方法確認」など

「災害に備えて」の準備について、5つの選択肢を用意して複数回答（いくつでも）を求めた。上位3つは、「震災時避難場所の確認」が39.5%、「3日分の飲料水、食料品の備蓄」が37.3%、「家族との連絡方法の確認」が33.4%とほぼ横並びの状況であった。また「特に何もしていない」が30.6%であり、各家庭における災害時への対策が必ずしも十分ではない状況がうかがわれた。



(10) 災害時の避難場所では
「トイレ」「食料」「連絡手段の確保」が心配

また、「震災時の避難場所について」「心配なこと」は何かを、6つの回答を用意して複数回答で聞いた。多い順に「トイレの確保」が78.7%、「食料の確保」が76.0%、「家族への連絡手段の確保」が67.3%で、多くの人トイレ、水・食料、家族との連絡を心配している状況であった。

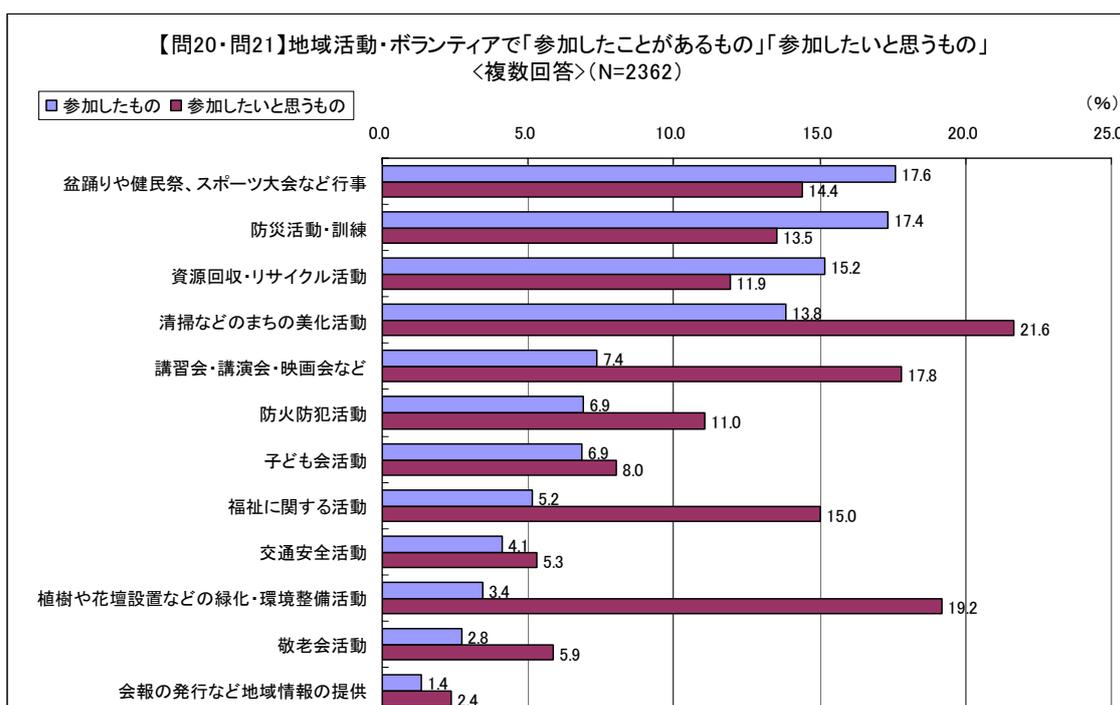


(11) 地域活動・ボランティアへの参加は約半数、
「行事等」「防災訓練」「資源回収」「美化活動」に参加

「地域活動・ボランティアで3年以内に参加したことがあるもの」について12の選択肢を用意して複数回答（いくつでも）で聞いてみた。「参加したことがあるもの」では、多い順に「盆踊りや健民祭、スポーツ大会などの行事」が17.6%、「防災活動・訓練」が17.4%で並んでいたほか、「資源回収・リサイクル活動」が15.2%、「清掃などまちの美化活動」が13.8%となっていたが、「無回答」が49.3%でほぼ半数であった。

(12) 参加したいものは
「美化活動」「緑化・環境整備活動」「文化活動」「福祉活動」

また、同じ選択肢で「参加したいと思うもの」についても3つまで答えを聞いた。「参加したい」活動については、「清掃などまちの美化活動」が21.6%、「植樹や花壇設置など緑化・環境整備活動」が19.2%でほぼ並んでおり、「講習会・講演会・映画会など」が17.8%、「福祉に関する活動」が15.0%などとなっていたが、約4分の1（23.5%）の人は無回答だった。美化や緑化など、環境面への関心が高い傾向が見られた。

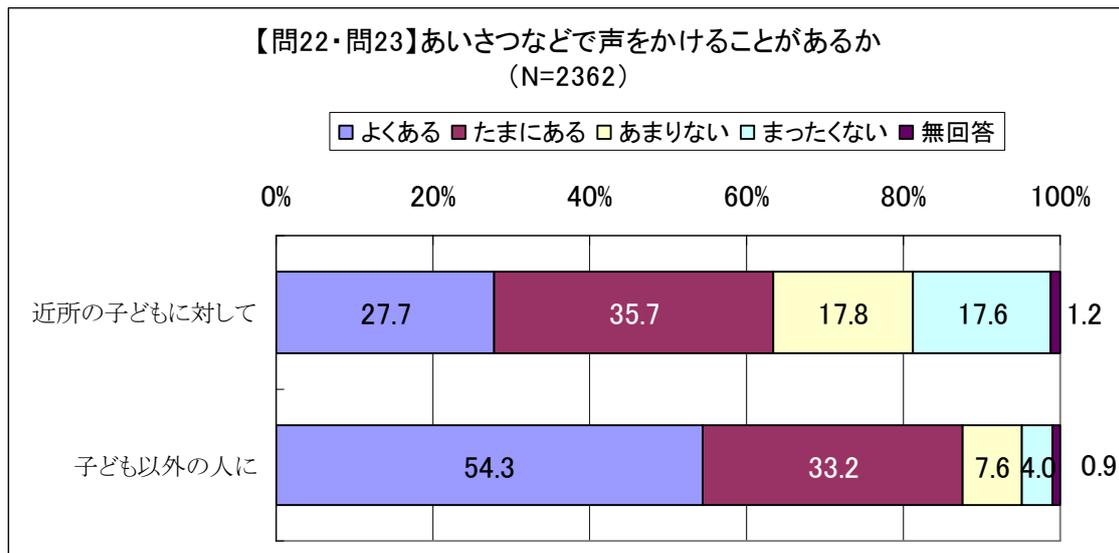


(13) 地域での交流、「子ども」への声かけは3分の2、
「近所の人」へは9割弱

地域での交流について、「近所の子どもへ」と「子ども以外の近所の人へ」に分けて「声をかけることが」あるか聞いた。「子ども」には、「よくある」27.7%、「たまにある」35.7%で、合わせて63.4%であった。「あまりない」「まったくない」は合わせて35.4%で、声かけを行っているのは3分の2弱であった。

「子ども以外の近所の人」への声かけについては、「よくある」54.3%で半数を超え、「たまにある」33.2%で、合わせて87.5%で多くの人が声かけをしていると答えている。「あまりない」「まったくない」は合わせて11.6%であった。

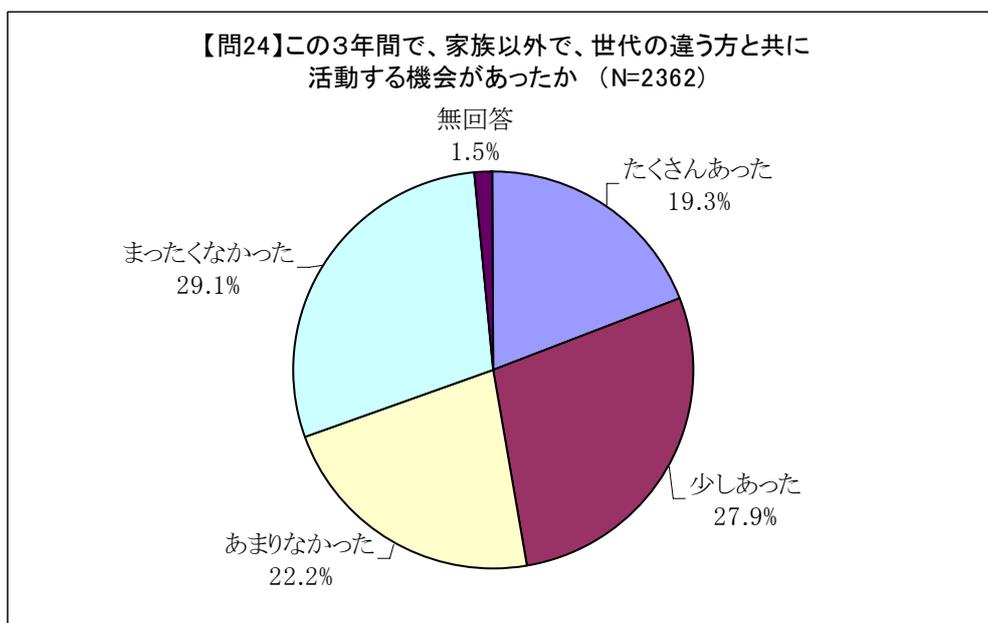
前回調査（P109 問24・P110 問25 参照）でも同様の質問をしている。「子どもに対して」の声かけは「ある」が「ときどき」を合わせて59.0%であり、「子ども以外」では合わせて72.3%で、今回の調査結果の方がそれぞれ4～15ポイント高くなっていた。



(14) 約半数が「世代の違う人との活動の機会」が「あった」

また、「この3年間で」「世代の違う方と共に活動する機会が」あったかを聞いた。「たくさんあった」は19.3%、「少しあった」は27.9%で、合わせて47.2%と過半数にわずかに届かなかった。活動する機会が「あまりなかった」22.2%、「まったくなかった」は29.1%で、「なかった」とする答えが半数を超えていた。

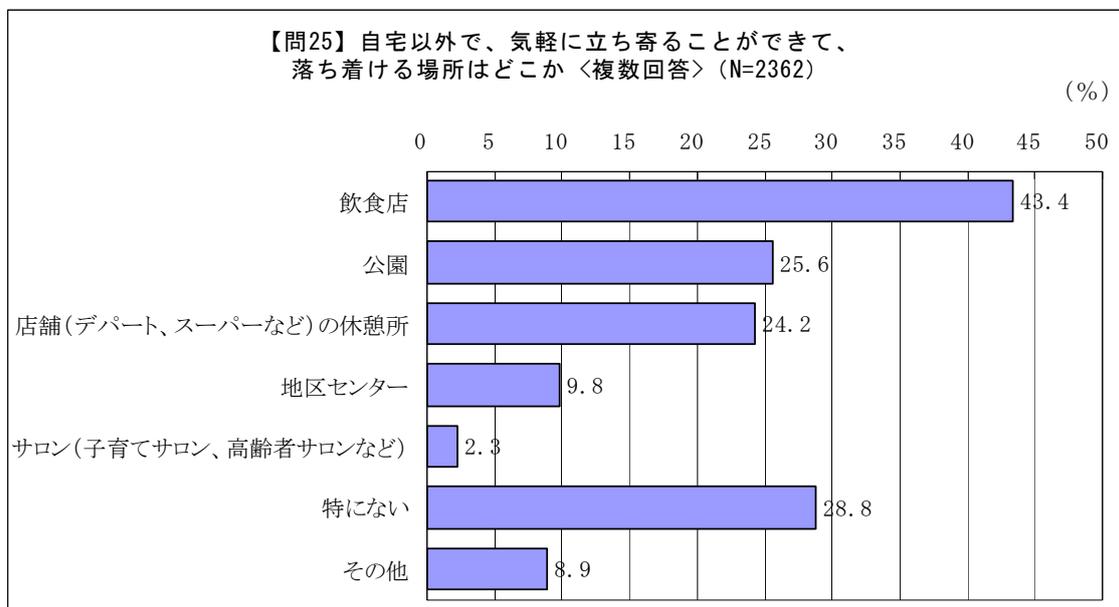
前回調査（P110 問26 参照）でも同様の質問をしているが、「共に活動する機会が」が「少し」を含めて「あった」という答えが32.6%で、「あまり」を含めて「なかった」は65.6%であった。今回は、前回と比較して「あった」という答えが15ポイント高くなっていった。



(15) 「自宅以外の落ち着ける場所」は
「飲食店」「公園」「店舗の休憩所」

「自宅以外の気軽に立ち寄ることができて、落ち着ける場所」（居場所）はどこか、選択肢を5つあげて複数（いくつでも）答えてもらった。「飲食店（喫茶店、ファミリーレストラン、ファーストフード店など）」が43.4%で最も多かった。続いて「公園」25.6%、「店舗（デパート、スーパーなど）の休憩所」24.2%であった。その他の答えは一桁台にとどまっていた。

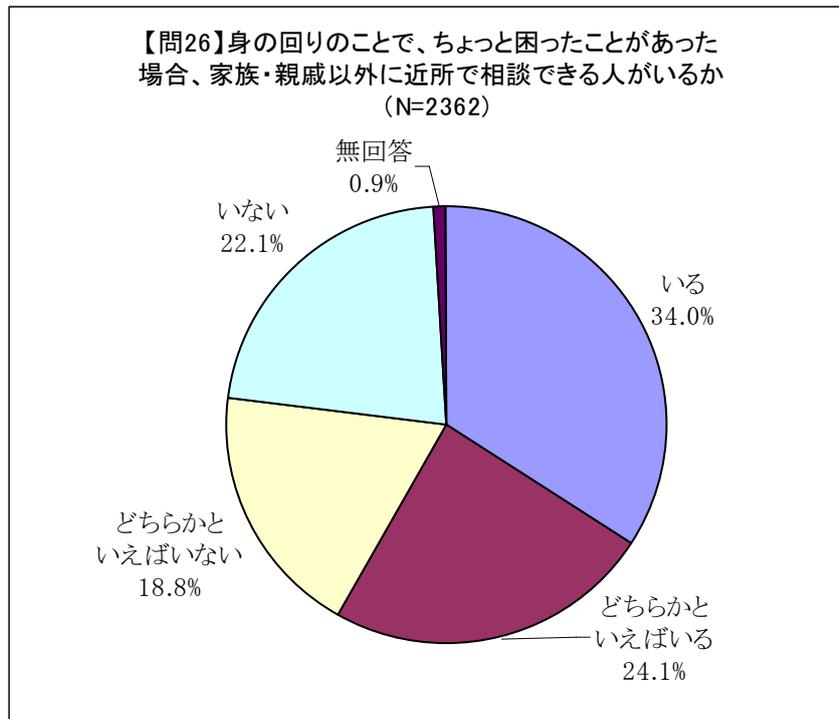
また、「特にない」と答えた人が28.8%だった。



(16) 「身の回りで困ったことを相談できる人が近所にいる」は6割弱

「身の回りのことで困ったことがあった場合」「近所に相談できる人が」いるかどうか聞いた。「いる」34.0%、「どちらかといえばいる」24.1%で、合わせて約6割（58.1%）が「いる」と答えていた。「どちらかといえば」を含めて「いない」と答えた人は40.9%であった。

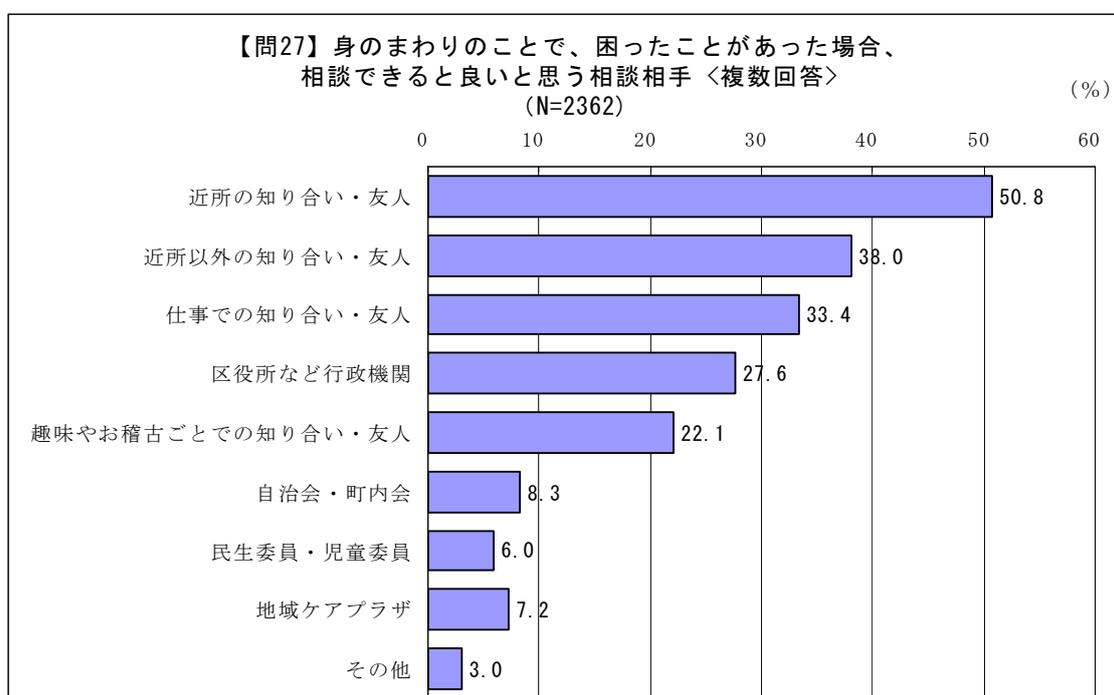
前回調査（P110 問29 参照）でも同じ質問をしている。「相談できる人がいる」という答えは「どちらかといえば」を含めて「いる」が59.7%であり、今回とほぼ同じ状況であった。



(17) 「困ったときに相談できる人」は
「近所の」「近所以外の」「仕事での」友人・知人

また、困ったときの「相談できると良いと思う」相手について聞いた。選択肢を9つ用意して3つまで答えてもらった。答えは多い順に「近所の知り合い・友人」50.8%、「近所以外の知り合い・友人」38.0%、「仕事での知り合い・友人」33.4%、「趣味やお稽古ごとの知り合い・友人」22.1%となっており、「知り合い・友人」が多かった。さらに、「区役所など行政機関」が27.6%となっており、行政への期待の高さを伺わせた。

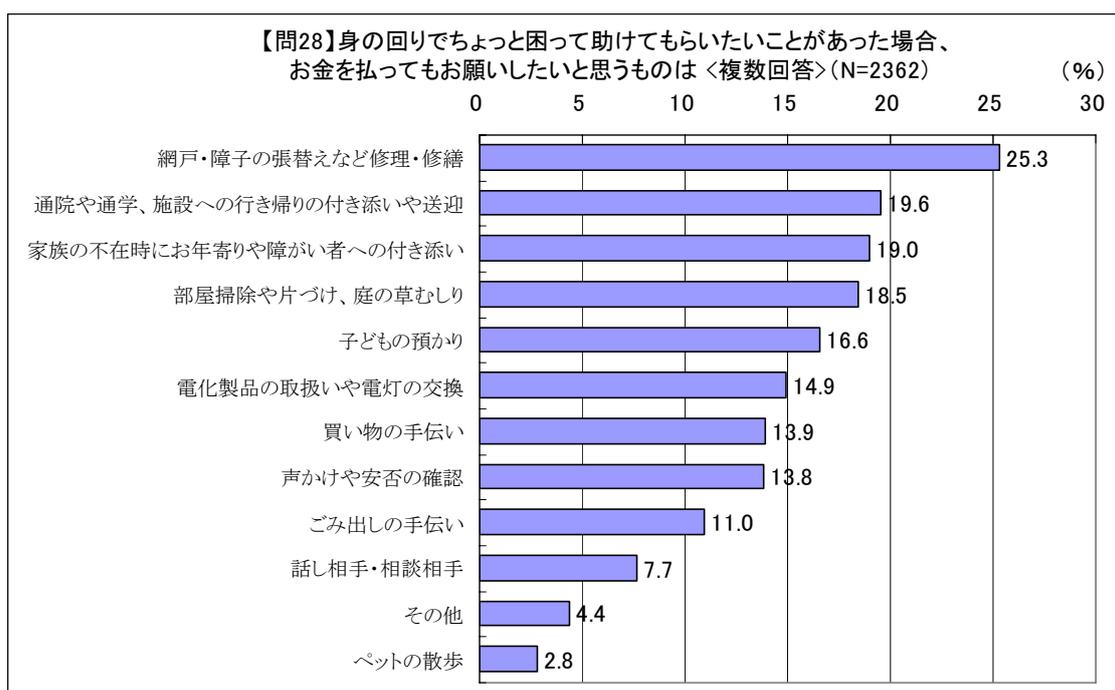
これも前回調査（P110 問30 参照）でほぼ同様な質問をしている（前回は「家族・親戚」が選択肢に入っていた）。多い順に「近所の知り合い・友人」55.5%、「近所以外の知り合い・友人」30.1%、「仕事での知り合い・友人」26.7%、「趣味やお稽古ごとの知り合い・友人」14.2%となっていた。今回はこれと比べると「近所の知り合い・友人」が5ポイント低いほか、「近所以外」「仕事で」「趣味やお稽古」が7～8ポイント高くなっていたが、順位はまったく変化がなかった。「区役所」については24.5%であり、今回とほぼ同じ状況であったといえよう。



(18) 「お金を払ってでもお願いしたいこと」は
「網戸・障子の張り替えなど」「通院・通学の付き添い」
「お年寄りや障がい者への付き添い」

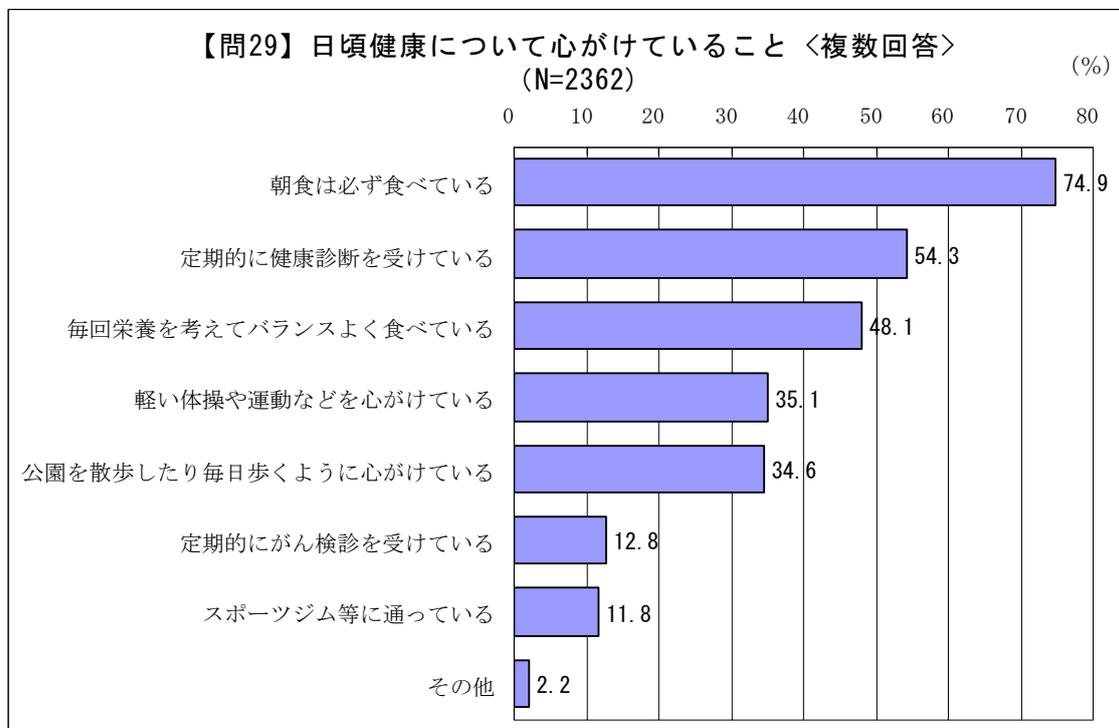
一方、困ったときに「お金を払ってでもお願いしたいと思うもの」は何かについて、選択肢を12用意して複数回答(いくつでも)を求めた。答えは、「網戸・障子の張り替えなど修理・修繕」が25.3%で最も多く、続いて「通院や通学、施設への行き帰りの付き添いや送迎」19.6%、「家族の不在時にお年寄りや障がい者への付き添い」19.0%、「部屋掃除や片づけ、庭の草むしり」18.5%だった。

以下「子どもの預かり」「電化製品の取扱いや電灯の交換」「買い物の手伝い」「声かけや安否の確認」「ごみ出しの手伝い」などが10%台で並んでいた。また、グラフには表れていないが、無回答が27.5%と4分の1以上あった。



(19) 健康について、朝食、健康診断、栄養バランスに心がけている

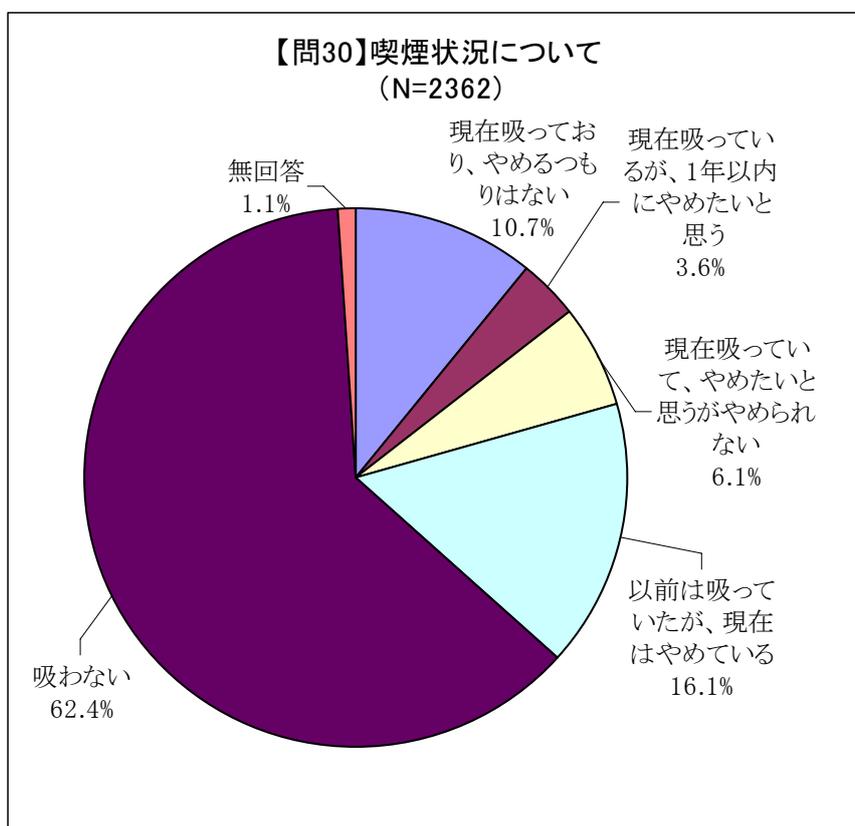
「日頃、健康について心がけていること」について、選択肢を8つ用意して複数回答（いくつでも）を求めた。「朝食は必ず食べている」が74.9%、「定期的に健康診断を受けている」が54.3%、「毎回栄養を考えてバランスよく食べている」が48.1%であり、これら3項目についてはほぼ半数以上の人々が「心がけている」と答えていた。続いて「軽い体操や運動などを心がけている」が35.1%、「公園を散歩したり毎日歩くように心がけている」が34.6%で、3割台で並んでいた。



(20) たばこは「吸わない」62.4%、「やめた」16.1%

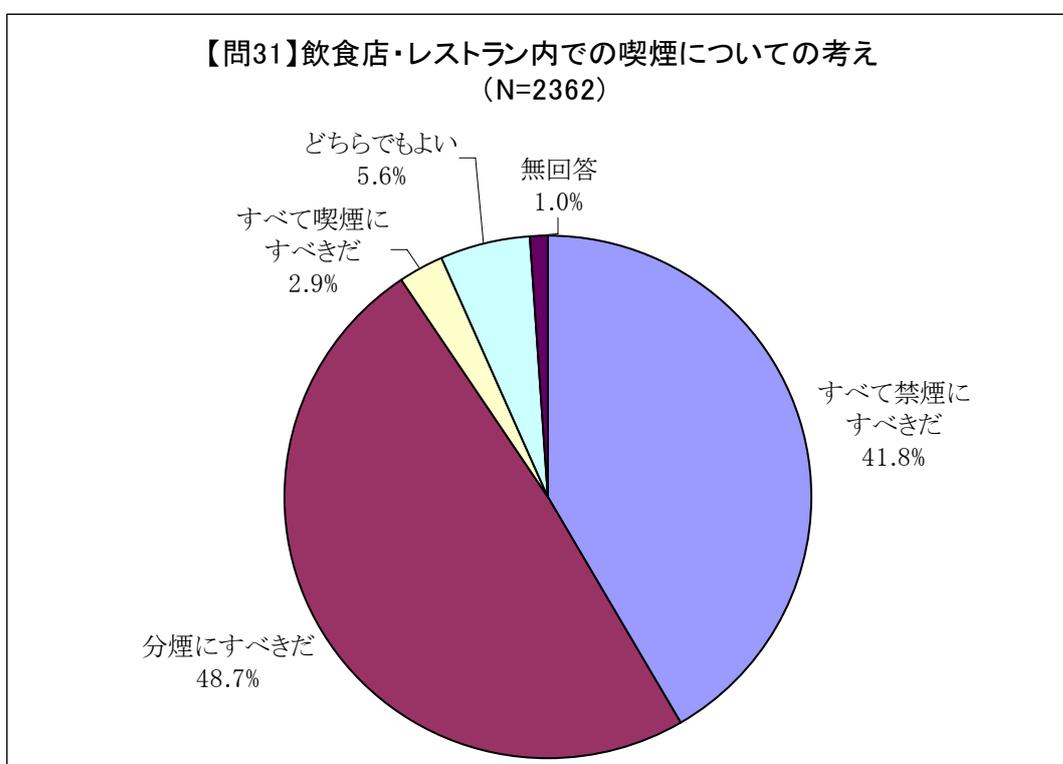
また、「喫煙状況について」聞いてみた。「吸わない」が62.4%とほぼ3分の2で最も多くなっていた。「以前は吸っていたが、現在はやめている」が16.1%で次に多く、たばこを吸わない人がこの二つを合わせると78.5%と8割近くに達していた。また、「現在吸っていて、やめたいと思うがやめられない」が6.1%、「現在吸っているが、1年以内にやめたいと思う」が3.6%で、やめたいと思う人が合わせて1割近かった。

これに対して「現在吸っており、やめるつもりはない」が10.7%でほぼ1割が喫煙を継続する意思を示していた。



(21) 飲食店等での喫煙については
「分煙すべき」48.7% 「すべて禁煙」41.8%

また、「飲食店・レストラン内での喫煙について」聞いている。「分煙にすべきだ」が48.7%でほぼ半数近く、「すべて禁煙にすべきだ」が41.8%で、分煙と禁煙で意見が分かっていた。分煙にせよ、禁煙にせよ、何らかの制限を加えるべきだとの考えが9割に達していた。

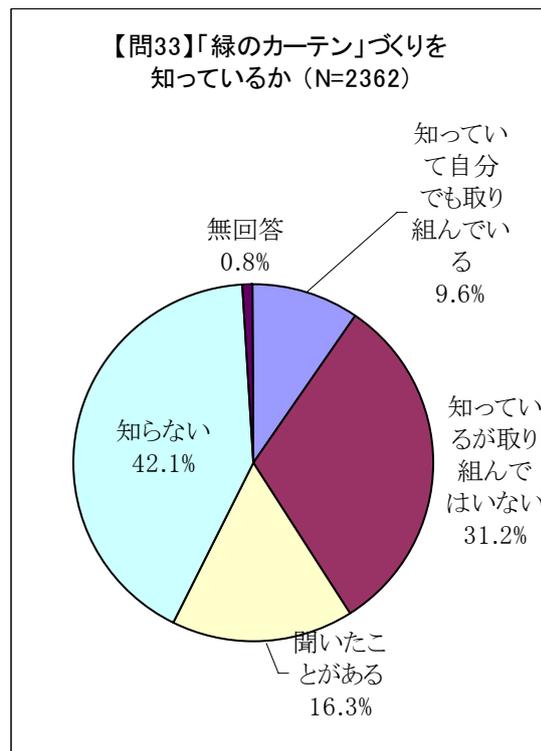
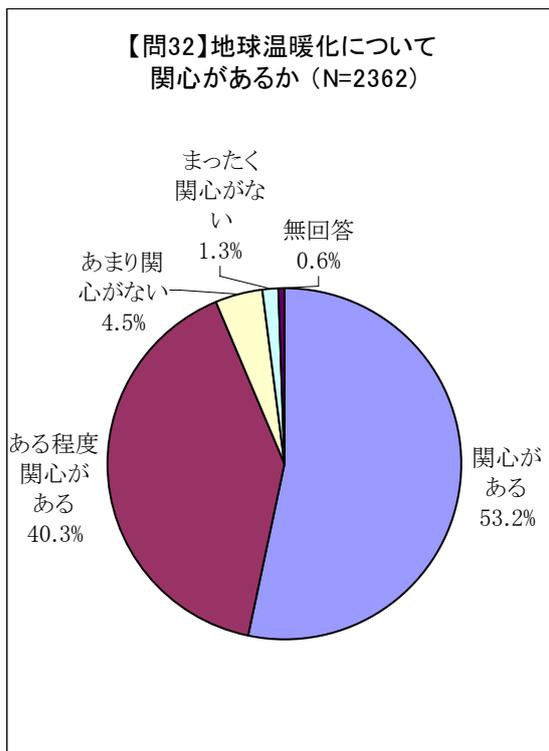


(22) 地球温暖化への関心、9割が「関心ある」

「緑のカーテン」づくり、「知っている」「知らない」ともに4割

環境問題について、まず「地球温暖化について関心があるか」質問した。「関心がある」が53.2%で5割を超しており、「ある程度関心がある」の40.3%を加えると、関心のある人が93.5%と圧倒的な関心の高さを示していた。

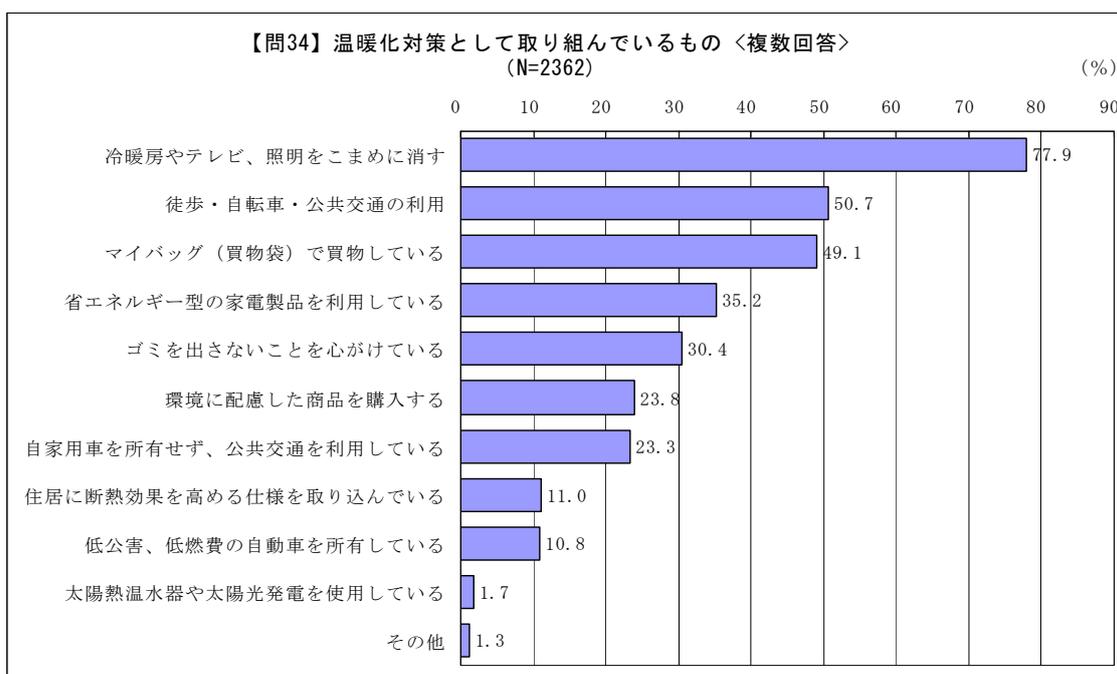
また、地球温暖化対策と夏の暑さ対策のため、ゴーヤやアサガオなどのツル性植物を植え、日当たりの良い窓を覆う「緑のカーテン」づくりを進めているが、この「緑のカーテン」について「知っているか」聞いてみた。「知らない」が42.1%で最も多く、「知っているが取り組んでいない」31.2%、「知っているが取り組んでいる」9.6%を合わせて「知っている」が40.8%と、「緑のカーテン」認知度は半々となっていた。



(23) 温暖化対策として取り組んでいるものは
「照明などこまめに消す」「公共交通の利用」「マイバッグ利用」

続いて、「温暖化対策として取り組んでいるもの」について、選択肢を12用意して複数(いくつでも)答えてもらった。「冷暖房やテレビ、照明をこまめに消す」が77.9%で最も多く、続いて「出かける時は、徒歩・自転車・公共交通機関の利用を心がけている」50.7%、「買物時にはマイバッグ(買物袋)を利用している」49.1%などについて、約半数の人が取り組んでいると答えている。また、「省エネルギー型の家電製品を利用している」35.2%、「ゴミを出さないことを心がけている」30.4%が3割台で並んでいた。

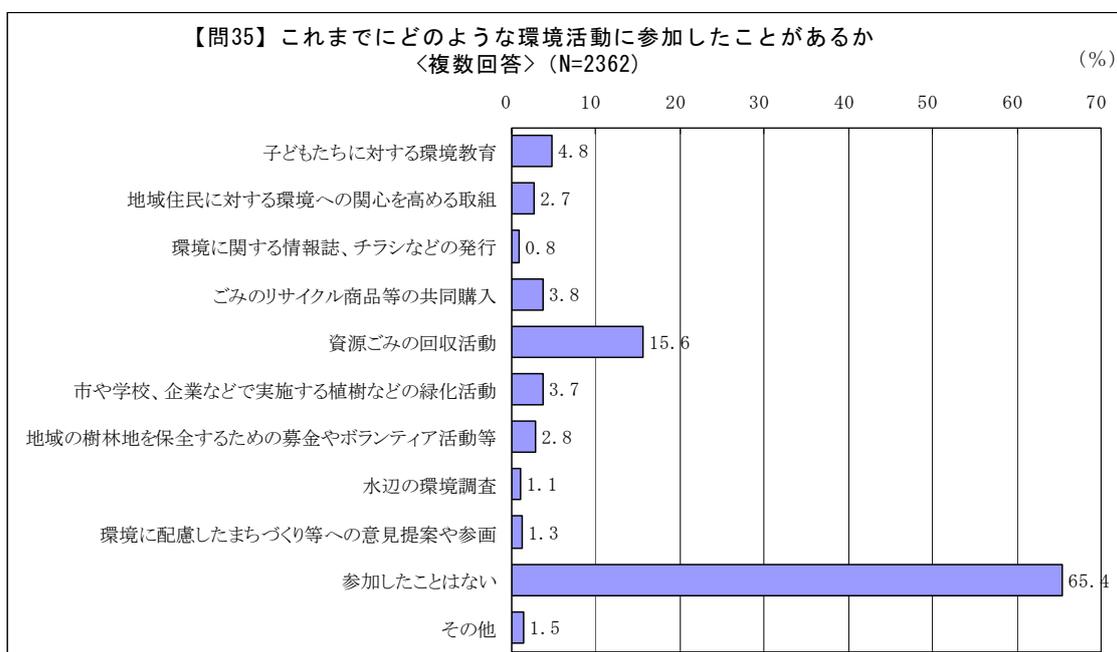
さらに、「商品を購入する際には、環境に配慮したものを選んでいく」23.8%、「自家用車を所有せず、移動手段は公共交通機関を利用している」23.3%と2割の人が答えていた。



(24) 環境活動に「参加したことない」が3分の2

さらに、「これまでにどのような環境活動に参加したことがあるか」11の選択肢を用意して複数回答（いくつでも）で聞いた。「参加したことはない」が65.4%で約3分の2となっていた。

具体的に参加したことのある活動については、「資源ごみの回収活動」が15.6%となっていたが、他の活動については1割を超えるものはなかった。



(25) 農業への親近感は6割弱

約9割が野菜の朝市や直売所があれば「行く」

区内には農地がまだ多くあり、地産地消ができる環境にあるが、「農業を身近に感じている」か聞いた。「感じている」が24.6%で、「少し感じている」が31.7%であり、農業を身近に感じる人が合わせて56.3%であった。「あまり感じていない」が30.2%、「まったく感じていない」が12.7%で、合わせて42.9%が身近に「感じていない」と答えていた。

さらに、区内で生産者の顔が見える「野菜の朝市や直売所が開かれた場合に、行こうと思うか」聞いている。「行く」が30.7%、「行きたいと思う」が57.8%で、合わせて約9割(88.5%)が行きたいと答えていた。地産地消に対する関心が極めて高いことが示されていた。

